

SDGs に関する高校生向け教育プログラムの開発

杉原亨*1

Toru Sugihara*1

本田卓也*2

Takuya HONDA*2

望月翔太*3

Shota MOCHIZUKI*3

*1 関東学院大学高等教育研究・開発センター Center for Research and Development of Higher Education, Kanto Gakuin University

*2*3 関東学院大学教務課 The office of academic affairs, Kanto Gakuin University

国連は 2015 年に「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」掲げた。SDGs は「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」という考え方に基づいて定められた目標である。本発表では、SDGs を題材として社会問題を「自分ごと」として捉えることを目的とした、高校生向けの教育プログラムの開発と試行プログラムの実証について報告を行う。プログラムは高校生向けを想定して 50 分で設定し、マインドマップやラウンドロビンなどアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた。

キーワード：SDGs, 教育プログラム, 高校生, ワークショップ, 自分ごと

1. 研究の背景と目的

2015 年 9 月に、国連サミットで、加盟国が全会一致で 2030 年に向けた国際社会全体の普遍的な目標として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択した。そして、アジェンダとして、エネルギー・健康・まちづくり・働き方・ジェンダーなどを対象にした 17 の目標と 169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」を掲げた。SDGs は「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」という考え方に基づいて定められた目標である。

教育分野では、学習指導要領で ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) の推進について明記しており、中央教育審議会では「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)」にて、SDGs が目指す社会を視野に入れた提言をしている。また、教育現場では、私立中学での SDGs に関わる入試問題の出題や、高校における教科科目と関連させた授業の展開 (国語科で SDGs に取り組む：埼玉県立所沢北高等学校など) や総合的な学習の時間での取り組み (2019 年度より横須賀明光高校で実施予

定)、大学 (岡山大学、関東学院大学など) での SDGs の教育・研究活動への積極的な関連づけの動きもみられる。SDGs に関わる教育プログラムの開発と展開の必要性は益々高まっており、SDGs を達成するためには、2030 年に社会の主役になる生徒や学生に対しての教育活動をより活発にする必要があると考えられる。これらを踏まえて、本研究の目的を「SDGs の教育プログラムを通じて、生徒・学生の社会参画に関する意識・行動が醸成可能かを明らかにする」と定めた。

その上で、SDGs の社会的な意義と拡大を踏まえて、SDGs そのものの理解促進だけではなく、SDGs を通じて社会参画へのアクションを踏み出す生徒・学生を育成する必要があると考えた。そのために生徒・学生向けの「SDGs に関する教育プログラム」の研究開発の着想に至った。

具体的な開発の第一歩として、2018 年 4 月から SDGs に関心を持つ学内の教職員による研究開発チーム (筆者ら) で、「SDGs に関する高校生向け教育プログラムの開発」に着手した。

2. 高校生向け教育プログラムの試行

2018 年 8 月に学内の教職員向け勉強会

でSDGsに関する高校生向け教育プログラムを試行した(参加者は8名,内訳教員2名,職員6名).時間は高校の授業にあわせて50分とし,プログラムのねらい(学習到達目標)は次のように設定した.

- ①社会問題に対して具体的にどのような領域・分野に興味関心があるのかを説明することができる.
- ②自分の興味関心ごとのあるSDGsのゴールに対して,自分ごととして捉えることができる.

3. 高校生向け教育プログラムの詳細

参加者は,冒頭でSDGsに関する基礎知識を神奈川県知事によるSDGsの取り組みを紹介する動画や,レジュメに基づいた講義でSDGsに関する17のゴールを学んだ.次に,A3サイズの用紙の「SDGs17Goalへの興味・関心マップ」に,切り取った17のゴールを関心の程度(あまり関心ない・そこそこ関心ある・かなり関心ある)で配置した(図1).その後,作成した興味・関心マップについて,4人1組のグループで全員が発言する「ラウンドロビン」で内容を共有した(図2).



図1 SDGs17Goalへの興味・関心マップ

さらに,最も興味関心があるゴールを3つ選択し,それらを「SDGs未来マップ」に貼った上で,自由にアイデアを文字や図で描く「マインドマップ」の手法を用いて,選んだ3つのゴールが2030年に全て達成されたと仮定してどのような社会であるかを

黒字で記述した後に,そのために自分が出来ることについて赤字で記述した(図3).その後,グループ内で描いたマップについてラウンドロビンで共有した.



図2 グループワークの様子

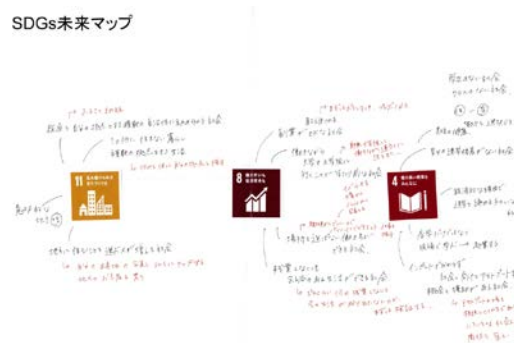


図3 SDGs未来マップ（事例）

4. 今後の展開

2019年度には,私立高校1年生を対象に総合的な学習の時間にてSDGsの視点を踏まえた地域に関するプロジェクト学習を実施する.また,筆者(杉原)が担当する大学のキャリア教育科目にて,SDGsをテーマとした授業回を設けて,大学生向けの教育コンテンツを開発し実施する予定である.

参考文献

- 中央教育審議会, 2018, 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)
- JAPAN SDGs Action Platform,
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>
 (2019年2月12日アクセス)